京都大学新聞
学生団体
京都大学学新聞社
京都市左京区吉田
京都大学構内
京都 ⓣ8111(学内142番)
振替・京都3909
1部(15円)

就職先の決まった人々

注 大学院進学者は除く

法学部

▽発女生命 黒沢明夫 戸辺信勝
▽芦始産業 桂樹 山本孝夫
▽三菱重工業 伊藤勝夫 上野公
大 平行也 横田己
▽第一銀行大阪支店 今井義夫
▽第一銀行大阪支店 新谷謙 柴信
▽日本鋼管 竹内昭
▽日本鋼管 竹内昭
▽日本鋼管 竹内昭

現代科学の黎明

―科学方法論をめぐって―

―(5)―
―文化人類学―
米山 俊直

歴史のシリーズ六〇は伝統的方法論をめぐって、生物学、物理学、心理学、更に哲学の立場からの科学方法論を展望してきた。それは近代の問題となった二つの問題、即ち、機械的な客観性に対する意識の問題と、「自然」と「人間」との関係をめぐる問題であった。これは現代の諸科学にとっても、なお、大きな問題であるであろう。

本号では、新しい問題として、人類学と文化人類学にわけられている。本稿の筆者米山俊直助教授は、さらにその二つの義を説明し、人類学の方法論を示し、なお、このシリーズで伝統的な人文科学、社会科学に対する問題点を明らかにしようとしている。

分化と総合

四つの領域

どんな学問でも、分化と総合の問題がある。それは、現代、これはがまず、さほどかたくるしい問題ではない。ともかく、これらは人間の研究対象としての、人間の問題である。

人類学は、人間の問題を、自然と人間の関係、文化と人間、歴史と人間、社会と人間の四つの領域に分けている。

伝統的にヨーロッパ、アメリカ、ソ連、日本などの人類学者は、「自然」と「文化」の二つの領域に分けて、自然人類学、文化人類学、考古学、言語学、民族学、社会学、民俗学、法学、政治学、経済学、宗教学、哲学、心理学、医学、教育学、歴史学、文学、芸術学、美学、倫理学、論理学、数学、物理学、化学、天文学、地学、生物学、農学、工学、医学、薬学、家政学、体育学、軍事学、教育